



15
1029
9

家寫兒藥性論卷二十目次

○引赤發泡腐蝕劑

芥子 ○芥子泥

沙萊菴

瑞香 ○瑞香皮膏

羌菁 ○羌菁膏

腐蝕藥三屬者

醇鑛酸

枯礬

刺必斯加烏秩屈斯



91-2016

硝酸銀
 安質母尼酪
 白砒石
 ○烏私多蒙度砒石液
 ○箇斯默フルエレ散
 ○砒石液

寤篤兒藥性論卷三十目次

寤篤兒藥性論卷三十一目次

○鑛泉 浴湯
 硫黃泉
 剛鍤泉
 炭酸曹達泉
 芒硝泉
 苦鹽泉
 海鹽泉
 海水
 人造鑛水
 補 魏及尼水
 補 海水浴法
 補 藥浴湯



蒸氣浴補 浴湯溫度表

軟水

新熱泉

新熱泉

新熱泉

新熱泉

新熱泉

新熱泉

新熱泉

寢篤兒藥性論卷二十一 目次

寢篤兒藥性論卷二十一

和蘭

東其小倉 不貴洞海林疆健卿 譯補

引赤發泡腐蝕劑

引赤發泡腐蝕劑

皆同焉ニメ唯其異ナル所ハ藥力ノ強



弱微甚ニアルハ故ニ約メ一篇ニ收
 ムト云フ①引赤劑之ヲ皮上ニ貼ス
 以テ其刺戟ノ猛勢ニ因テ其部赤色刺
 痛シ輕焮腫ヲ發スルナリ而メ其藥力
 亦尚除カズ綿ヨ留連スルハ刺衝愈猛
 ニメ焮腫愈劇シク終ニ湯乙液滲出メ
 表皮泡腫メ是ヲ發泡法ト謂フ腐蝕藥
 ハ少シク之ニ異ナリ之ヲ貼スレバ其
 部焮腫ヲ發スルコトナラズ更
 ニ死肉トナリ遂ニ膿潰溶崩シ以テ生

肉ト分離ス②引赤發泡劑ノ用法ニ般
 ナリ一ハ局處ニ係リ一ハ全身ニ係リ
 其局處ニ係ル者ハ内部要地ニ病毒ヲ
 抱テ外部不貴ノ地ニ引出スルニ用井
 又大ニ其部ノ官能ヲ提起スルニ用ウ
 諭ヘバ麻疹慢性寒腫等ニ用ウルカ如
 シ又胃痙痙攣吐瀉痛泄瀉痢病痙攣性
 ノ喘息百日咳等ノ如キニ用井テ鎮痙
 ノ效ヲ奏スルモ亦局處ニ係レバナリ
 其全身ニ係ル者ハ生力沈垂ヲ奮起ス

ルニ用ウ。即一種ノ神經熱ニ、確然タル
 偉効ヲ呈スルカ如キ是ナリ○腐蝕劑
 ハ創傷ノ贅肉、疣贅、痛風結腫ヲ消除シ、
 腐敗瘍及ヒ毒獸咬傷ニ貼之、之ヲ淨潔
 シ、小肉瘤、豚肉腫ヲ消除シ、腫瘍ヲ破開
 シ、強打膿ヲ造ルニ峻效アリ

芥子 セミナ、シ子、ピオス、羅
ミスタ、ル、ド、サ、ド、蘭

芥子ノ性效ハ既ニ揮發衝動劑篇ニ詳説セリ、
 故ニ此ニ贅セス、但之ヲ外用スレハ能ク赤色
 焮衝ヲ誘スルヲ以テ引赤劑トナスニ堪タリ。

其法芥子ヲ研末メ、水或ハ醋ト蒸餅心或ハ蒸
 餅母ヲ加ヘ、芭布トシ温メ貼ス○芥子泥ヲ貼
 スルノ部ハ、疾患ノ所在ニ就テ各同シカラス、
 頭痛、謔語等ニハ、項若クハ膈ニ貼シ、咽喉焮腫
 ニハ頸ニ圍繞ス、又僂麻質私性ノ焮衝要地ニ
 發スル者ハ、差其部ヲ距テ之ヲ貼シ、以テ導拽
 劑トナス○奮起衝動ノ效ヲ要スルハ、直子ニ
 患部ニ貼スベシ、即麻痺病ニハ其部ニ貼シ、瘰
 癧、瘡、癰等ニハ皮下ニ神經ノ最近密ナル部ニ
 貼スルカ如キ是ナリ○芥子泥ノ效ヲ猛ナラ

高麗生論 卷二

シメント要セバ。芫菁丁幾。沙羅朮等ヲ加フベシ。但其效愈劇烈ナラン。一ヲ要セバ。粗末ノ芥子ヲ水ニテ捏シ置ク。一少時ニメ泥ヲ造ルニ如クハナシ。

沙羅朮 ペラド、コク、レアル、アル、ヒラシア 羅

揮發衝動劑篇ニ出セリ。○性效芥子ニ同シ。

瑞香 コルテキス、メ、ベレ、イ、ロ

林氏ノ所謂ダブ子。メゼレウ。皮ナリ。其形薄

クメ柔靱線條アリ。外面綠色。内面黃白色。臭ナ

ク味太辛刺ス。瑞香ト稱スル者ニメ和名本

ミバリ又ナツトボウス又コシヨウノキト云者 外敷メ引赤發泡ノ效アリ。又能ク膿瘍ヲ造ル。此皮若シ乾固セル者ハ用ウル。片一夜醋ニ漬シ。軟和ナラシメ。皮ノ内面ヲ貼シ。硬膏ヲ以テ其トヲ覆ヘハ。漸ク丹毒様ノ焮腫ヲ發シ。終ニ表皮泡腫メ湧乙液ヲ充ツ。或ハ始メ芫菁膏ヲ以テ發泡シ。泡皮ヲ剥脫メ。瑞香皮。瑞香膏ヲ撰ミ用ウルモ亦良シ。但始メ一日ニ一二次更メ貼シ。膿瘍已ニ成ルニ至レバ。二日毎ニ更ヘ貼メ佳ナリ。○效力猛ナルニ因テ。間全身ニ劇キ丹毒性ノ焮腫ヲ發

スルヲアリ○久ク打膿法ヲ施メ。皮膚ヲ刺衝
シ膿液ヲ分泌スレバ、一ハ内部ノ病ヲ導拽シ。
一ハ其分泌ニ由テ他ノ分泌機ノ病ヲ受ル者
ヲ防キ。以テ慢性諸病ニ殊效ヲ奏ス。即其效ア
ル者ハ慢性緩久ノ皮膚病。局處ノ癩。麻質私病。
痛風ノ如キ是ナリ。又肺勞ニ用ヰテ。其將ニ勞
病トナラントスル者ハ固ヨリ論ナシ。已ニ癆
病トナル者モ其進歩ヲ攔駐スルニ良效アリ。
余嘗テ少年ノ勞瘵ニ。胸部ニ瑞香皮膏ヲ以テ
大打膿法ヲ施シ。久シク痊サラシメ。竟ニ良效

ヲ収メリ。蓋此症ハ胃寒治ヲ怠ルヨリ成ル者
ニメ。真ノ肺勞ニハアラズ○瑞香皮若クハ瑞
香皮膏ヲ貼メ。打膿ヲ持久セシムレバ。經年ノ
潰瘍ヲ治スト雖。害ヲ發スルコトナシ○内用メ
延年ノ癩毒及痛風ヲ瘳ス。殊ニ癩毒性ノ骨痛
ニ痛風ヲ狹ム者ニ偉效アリ。此症ニハ木類煎
ニ加ヘ用ウ。其效發汗ニ在リトス。然レ大量ニ
用ウレバ劇甚ノ腹痛嘔吐下血至著腸胃衝
ノ如キ峻症ヲ發シテ。死ニ至ルコトアリ。此ニ注
意メ。誤用スルコト勿ラシム。○瑞香毒ヲ

解スルハ醋ヲ良トス故ニ瑞香皮ヲ内用スル
 ニハ常ニ醋少許ヲ加マベテ但輒近ニ至テ内
 用ノ法廢セリ○内服ハ好ニ煎劑トス半錢
 ヨリ二錢至煎メ十二弓ヨリ十六弓ノ液ヲ取
 ル
 ○瑞香皮膏 ユングエンム グ
 製法數種アリ○打膿ヲ瘡ザラシムルカ為
 ニハ日ニ一次少量ヲ取テ創上ニ置クヘシ
 芫菁 カンタリデス スパンタリデス ス ロ ゲ ン 蘭
 芫菁ノ性效及内服ノ説ハ既ニ利尿劑篇ニ出

セリ此篇ハ只其外用ノ法ト記スルノ
 ○其用法三アリ其一ハ衝動劑トシテ用ウ
 第一 神經熱腐敗熱刺衝機減衰脈細數生カ沈衰
 鄭聲昏睡痙攣搐製等ヲ發スル者ニ良效アリ
 ○此症ニ用ウル芫菁膏ハ發泡ノ效ヲ要セズ
 唯引赤ノ效ヲ要ス故ニ一二時毎ニ貼處ヲ更
 メ努テ知覺銳敏ノ部ヲ撰ムニ腐敗熱ニ不
 殊ニ注意メ泡ヲ發セシムルナカルベシ發
 泡ノ部壞疽ニ變シ易キヲ以テナリ
 第二 熱性瘡疹病 痘瘡麻疹赤斑熱等皮膚虛弱ニ

メ瘡疹發出セサル者内陷ノ恐キヲル者或ハ
已ニ内陷セル者或遺藥病論ヘハ骨節焮衝胸
病眼病等ニ良效アリ

第三麻痺慢性神經病四肢ノ麻痺ハ勉メテ麻部
ノ神經行道ニ從テ貼スベシ中風就中粘液中
風神經中風ハ毛髮ヲ剝除シテ頭上ニ貼シ遺
尿ハ薦骨ノ上黒障眼ハ前額ニ貼スヘシ

第四水腫凝体ノ官能萎衰セルヲ提起シ吸收機
ヲ變理スルニ由テ開水腫ニ大效ヲ奏ス殊ニ
經久ノ潰瘍乾癩ノ後或ハ皮疹内陷ニ由テ發

スル所ノ水腫ニ尤良效アリトス○惡液質家
ノ者ハ大ニ謹慎メ用ウヘシ何者此ノ如キ者
ハ之カ為ニ焮衝ヲ發シ尋テ險症蜂起シ或ハ
壞疽ヲ生シ終ニ斃ルニ至ルヤアレバナリ
○其二導拽劑トシ用ウヘシ
第一焮衝病先瀉血ヲ施シ消焮藥ヲ与ヘテ其劇
勢已ニ退キ極液滲出ノ恐アル者焮衝慢性ニ
轉セシトスル者ニ效アリ
第二慢性焮衝殊ニ聖藥屈性或ハ樓麻質私性
者即慢性咽喉焮腫眼焮腫ニ效アリ又勞瘵ハ

慢性隱伏焮衝ヲ挾ム者蓋焮衝病多クハ或骨節
 慢性焮腫膝ノ白腫胯骨節ノ焮腫産婦ノ白
 腫痛アル者産婦ノ腹膜焮衝痢病等ニ驗アリ
 第三 傷麻質私痛風ニ效アリ但シ焮衝熱未
 退カサルノ間ハ之ヲ用井テ害アリ然レ熱已
 ニ退キ焮衝慢性ニ轉スル者ハ缺ベカラサル
 ノ要藥タリ又胯痛ニハ膝ノ外面ニ貼シ傷麻
 質私性ノ顔面痛ニハハシテアテテ神經ニ貼シ
 齒痛ニハ耳下或ハ耳ノ前後或ハ頸ニ貼メ尤
 良效アリ

第四 呼吸器ノ經久慢性傷麻質私ニハ肩胛間ニ
 貼スベシ
 第五 皮膚痛風脚痛風等ノ内攻セル者ハ曾テ其
 病ニ嬰リシ部ニ貼スベシ
 第六 經久ノ皮膚病諸液ノ苛烈ナルニ由ル持久メ
 痊エザル者ニ良ナリ
 ○其三ハ淨潔劑釀膿劑トシ用クハ狂犬咬傷
 ニハ恐水ヲ防治センカ為ニ芫菁末ヲ創口ニ
 撒シ或ハ芫菁膏ヲ貼スヘシ潰瘍經久ニメ持
 病トナル者將ニ癒ントスル也其ヲメ癒サテ

シムルカ為或ハ惡臭稀凉ノ敗血漿ヲ分泄ス
ル者ニ貼ス。又囊癰ヲ蝕除スルニ用ウ。下ア
リ

○芫菁ノ泌尿器ニ害アルハ、已ニ内用ノ條ニ
説ケルガ如ク、外用モ亦異ナルナシ

○芫菁膏

芫菁ヲ外用スルノ方。硬膏ヲ佳ナ
リトス。其方局方諸書ニ記載セリ。茲ニ舉ル所
ノ者ハ、白耳義藥局ノ方ナリ

黃蠟

松脂

諸各

家猪脂

清淨者

右四味溶和シテ放冷シ。芫菁ハ弓ヲ混和ス

補

打膿軟膏

オリーブオイル
ボタニ
ホウデン

墨林、騏舎密書ニ曰、房非兒名云、予數年來、打
膿軟膏數方ヲ造ル。或ハ芫菁ヲ阿列襪油ニ
熱浸シ。或ハ家猪脂ニ煮。或ハ水煎シ。或ハ酒
煎シ。膏ヲ作り試ミルニ、其效共ニ良ナリト
雖、其力一定ナラス。故ニ今左ノ方ヲ造ル。方
芫菁新鮮者搗テ粗末 亞爾箇兒五弓
右二味先冷浸スル。十二時ニ以。重湯ニ煎
スル。一時半放冷メ。子細ニ絞リ瀝シ。又其
液ヲ瀝過シ。左ノ軟膏中ニ加フ

蜜蠟ニ家猪脂新鮮者右二味先
 溶解シ放冷メ將ニ凝結セン外スル時芫菁
 液ヲ混和シ次ニ又左ノ品ヲ加フ重
 龍腦三錢阿列襪油適宜爾右油ヲ以
 テ龍腦ヲ溶化シ法ノ如ク膏中ニ混和シ子
 細ニ攪拌シ膏全ク冷ヘテ白色トナルニ至
 ル○此方ハ其效常ニ増減變化スル下ナク
 打膿ノ間焮衝其他ノ諸症ヲ發スル下ナシ
 ○腐蝕藥ニ屬スル者
 醇鑛酸ゲコシセンテレールデ
ミ子ラールレシレールン蘭

収斂劑篇ニ載スル所ノ諸鑛酸皆之ニ屬ス○
 水液ナルヲ以テ腐蝕ニ供用スルニ便ナラス
 枯礬ゲアルメンユスタ羅
ゲアラメンデアロイン蘭
 明礬條下ニ出セリ
 刺必斯ボットアス加烏蟄屈斯ボットアスカウスチキニスシ
ハ羅ベールテン
 剥萬亞斯ノ條下ニ出セリ
 硝酸銀ニトラスアルゲンチ○ニトラスアルゲ
シニトラスアルゲンチ
 羅サルベールセルシル
 形圓柱ノ如ク大サ筆管ノ如ク長短齊シカラ

ス、灰色或ハ灰黑色、臭ナク、悍烈侵蝕、味
アリ、破碎スレバ、光輝アル小芒ヲナス、能ク水
ニ溶化ス。○腐蝕ノ一良藥タリ、殊ニ創傷ノ贅
肉ニハ、少許ノ水ヲ以テ硝酸銀ヲ濕シ、頻々肉
上ニ觸ルレバ、能ク贅肉ヲ消除ス、又癰毒瘍殊
ニ下疳ノ焮衝太シカラザル者ニ、淨潔藥トシ
用井テ良ナリ、漏瘡ニハ多量ノ水ニ溶化セル
者ヲ以テ、注射劑トシ用井テ、能ク之ヲ治ス。○
硝酸銀ハ、収斂性ノ者ナルヲ以テ、腫瘍ヲ破開
スルハ、刺必斯加烏蟄屈私ヲ勝レリトス、凡腐

蝕藥ヲ以テ腫瘍ヲ破開スルハ、法、先綿布ニ片
ニ硬膏ヲ攤シ、其一ハ正中ニ適宜ノ孔ヲ穿テ、
腫瘍上ニ貼シ、腐藥ヲ孔中ニ填メ、又其一ヲ以
テ其上ニ固貼シ、腐藥ヲ動クナシカス、
若シ腐藥ノ亂散シテ、傍邊ノ良肉ヲ害スルノ
恐レアル者ハ、細織ノ硬膏布ヲ以テ、孔圍ニ小
堤ヲ作リ、則、亂散ノ憂ヒナシ、已ニ之ヲ施ス
ト法、如クイ、後、數時ヲ經テ之ヲ除キ去レ、
其痕死皮ヲ生ス、即、直下ニ其皮ヲ截開シ、或ハ
緩和布ヲ貼シテ、死皮ヲ自ラ剥脫セシム

○硝酸銀及硝酸銀晶キリタル其性腐蝕
フル大毒アリト雖亦内用ニ供ス殊ニ癩癩ニ稱
 用ス然氏之ヲ用ウルニハ大ニ戰兢畏驚スヘ
 又極メテ稀薄ニセサハ用ウルニハ許サ
 不即ナリヨリ一ハ半ヲ以テ清水ニテ
 可ニ溶化セシメ毎服一食匙日ニ四次但硝酸銀ハ
 量ハ四分ハヨリ一ハ半ヲ以テ半以ニ至ル
 へシ○硝酸銀ヲ内用スルニハ亞爾加里硫酸
 鹽酸酒石酸石鹼收斂性植物ノ浸劑等ヲ配用

安質海尼酪スル材忌ム其性
シ質海尼酪シ其性
カウチ質海尼酪シ其性
スガ質海尼酪シ其性
 白色微透亮ニシ質牛酪ニ似タリ風ヲ見テ黃
 色トナル○效用自餘ノ腐藥ニ同シ然氏温ニ
 會テ流動ス故ニ傍邊ノ良肉ヲ害シ却テ其效
 ヲ本地ニ遲クスルヲ鮮シ
 白砒石セキ其性
シ白砒石セキ其性
シ白砒石セキ其性
シ白砒石セキ其性

酸化砒石ハ獨イッ乙ク佛郎西フ等ニ生ズ。然レ又
 白砒石鑛殊ニ錫鑛格拔爾多鑛ヲ煆製メ得ルナ
 リ。世間通メ白砒石ト云。○酸化砒石ハ白色堅
 重。透亮ナラズ。破碎シ易ク。破碎スレバ光彩ヲ
 失。水ニ溶化シ易ク。火ニ投スレバ白煙ヲ發ス。
 烟氣大蒜臭ノ如シ。又琢磨シタル金類ヲ以テ
 此烟ニ觸ルレバ。白斑ヲ生ズ。烙銅板上ニ砒石
 ヲ投ズルハ。銅板ニ黒點ヲ生メ除クヘカラズ。
 ○砒石ハ最大毒藥タリ。故ニ内外ニ用井テ大
 ニ人体ヲ毒ス。極小量ヲ與ヘテ吐瀉昏暈。痲不

遂ニ發シ。大量ヲ與フレバ腸胃大燼衝ヲ發シ。
 險逆ノ諸症陸續蜂起シ。立地ニ斃ル。其燼衝ヲ
 發スルヤ。始メ胃刺痛シ。食道灼カ如ク。大渴引
 飲。尋テ其痛腸ニ波及シ。脉細遲不齊ニシ。便ニ
 臨ンデ酸痛努墜シ。腐臭聞ヘカヲサル物ヲ下
 泄シ。小便血ヲ交ヘ。顔色蒼白ニシテ全体冷汗
 ヲ流シ。皮膚赤斑ヲ發シ。四肢劇痛ノ終ニ知覺
 ヲ失シ。又痲痺ヲ呼吸短息且煩悶ヲ呻吟メ休
 マズ。頻ニ昏眩シ。生力大ニ脱耗メ乃死ス。○砒
 石ノ大害ヲ此ノ如ク云。此ノ如シ。故ニ之ヲ用ウ

ルニハ、小心翼々輕忽ニスベカラザラシキヲ
要ス。若シ之ヲ服メ毫髮タモ藥害ノ微ヲ覺知
セハ、神速ニ後服ヲ停メ、微温湯乳汁亞麻仁乳
阿列襪油等ヲ多量ニ與ヘ、以テ吐ラ得ルニ至
ルヘシ。勿^テ擲^テ祭亞石鹼溶劑。石灰水等ハ、消毒ハ
最良藥タリ。就中石灰水ハ能ク砒石ト緻密ニ
親和メ、其毒性ヲ禁固ス。故ニ殊ニ良ナリ。已ニ
嗽衝ノ微ヲ現スル者ハ、刺絡若クハ局部ノ瀉
血ヲ行ヒ、緩和琶布ヲ貼シ、緩和灌腸法ヲ施シ、
緩和粘滑油質ノ品ヲ内服セシメテ、以テ之ヲ

制伏スベシ。○砒石ノ人ヲ毒スル事雖ノ如ク
大ナリト雖^レ往古ヨリ已ニ内外共ニ醫藥ニ供
セリ。其間歇熱瘡等ニ稱用セシ秘藥ハ、凡テ
砒石ヲ以テ君品トセリ。而メ其之ヲ用ク者
多クハ不學無術ノ徒タリ。故ニ其患害ヲ招ク
事屢之アリ。○和蘭ニ於テモ古已ニ外用スル
者アレバ、遂ニ發メ用非ズ。數年前ニ至リテ再
ニ外用スルコトヲ始メ、能ク瘡瘡ヲ治スルト云
然レ和蘭ノ内外科ノ經驗說ニ據ルニ、或ニ發
ヲ得タリトシ、或ハ大ニ害ヲ發スルニ、其詳說

吾醫學督學須見滿先生著錄ル所ニ砒石用
 法ニ記セリ○砒石ハ皮表癰腫ヲ治ス雖腺
 ノ癰腫ニ至テハ根治スルハ本ノ交鼻或ハ面
 部ニ發スル侵蝕癬ニ良效アリ○外用ノ方數
 種アリ就中乙烏私答蒙度各ノ方名尤高其
 方安質母扭ニ分砒石阿芙蓉各一
 右三味先上ノ二味ヲ柑鍋ニ入以焙谷以研末
 阿芙蓉ヲ加ス刺歇彪列各ノ方外難
 砒石四清水北二右溶解シ用ク又高名
 革私墨名フルエレ散ノ方アリ其方

朱砂ニ錢 陣瀝 燒灰八 血竭十二

砒石四 右四味散トナス此方ハ輓近

ニ及ンデ歇而兒四度君力ヲ極メテ癰腫ニ效

アルヲ稱ス然正唯皮表ノ癰腫侵蝕癬ニ效ア

ルノ○内用メ頑固ノ神經病ヲ治ス恐水病

ヲ豫防シ殊ニ頑固ノ神經病ヲ治シ間歇熱ニ

ハ殊ニ砒石液ヲ稱用ス砒石液ノ製法白耳義

局方ニ載セタリ今収録メ茲ニ掲ク

○砒石液リキオルアルセニカリス○ワリ

酸化砒石極末 酒石鹽各六十八 淨水八

以上三味硝子壘ニ入レ、重湯煎ニ温メ、砒石十分ニ溶化スルニ至リ、放冷メ、刺賢垓兒精半ヲ淨水ハ半ヲ加フ○此液二錢中ニ砒石一分ハヲ含ム○頑固ノ間歇熱ノ外用ウルヲ禁ス、又頻服多用スヘカラズ、若シ毫髮タリトモ、眩ノ徴アルヲ見ハ、直ニ後服ヲ停ムベシ○訶里兒名患者ノ年紀ニ從テ、此液ヲ用ウルノ差等ヲ定ム

- 一歳至四歳 每次二滴至五滴 日ニ二次 或ハ三次
- 五歳至七歳 每次五滴至七滴 同前



八歳至十歳 每次七滴至十滴 同前
 十三至十八歳 每次十滴至十二滴 同前
 十八歳以上 每次從十二滴 同前
 ○獨乙名ノ大學師里布底兒名惡性間歇熱ヲ截ルニ、大量ノ砒石ヲ與ラセテ、下ヲ説ケリ、然レ和蘭ノ大醫者布涅爾名ノ説ニ曰、此方ハ里布底兒ノ如キ、熟煉ノ老手、患者ノ生路ヲ萬一幸スル時、以テ用ウル所ノ者ニ、誠ニ至危ノ方ナリ、且小量ノ砒石ヲ以テ、間歇熱ヲ截ル者、多ク尚屢水腫、勞瘵、内臟閉塞等ノ症ヲ續發

終ニ死ヲ免レサレノ間之アリ。未熟ノ醫輩
用ウヘキ方ニアラス。殊ニ近代規尼捏世ニ出
シヨリ。其效無畏安行百發百中ナルハ。人々復
砒石ヲ以テ。截熱ニ供スルノヲ廢セリ。然リト
雖多篤^ト篤^ト氏^ハ獨規^ニ規^ニ捏^ニ效^ナキ症ニノ^シ。毎朝
各砒石液五滴ヲ取テ。之ヲ與フト云々
○
十六
宗篤兒藥性論卷二十終



宗篤兒藥性論卷二十附錄

補 孟偃設爾考

強按ニ。本文中煎浸諸劑ニ并ヘ用ウル所ノ
孟偃設爾劑ハ。先輩ノ譯書中ニ未ダ見サ
ルヲ以テ初學ノ輩或ハ此劑ノ名義ヲ知ラ
サル者アラシ。故ニ弗里設藥性論中ノ孟偃
設爾ノ条一章ヲ抄出シテ左ニ掲ク
弗里設藥性論ニ曰ク孟偃設爾ハ飲劑ス
ス。羅^タ蘭^ク冷飲劑^ク。ユ^ラム^シ。羅^シ。○
ス^キ。蘭^ク。冷飲劑^ク。ユ^ラム^シ。羅^シ。○
ス^キ。蘭^ク。吸劑^ク。キ^ンク^シ。ス^ラ。○
ス^メ。一^ル。セ^ル。蘭^ク。吸劑^ク。キ^ンク^シ。ス^ラ。○
ス^メ。一^ル。セ^ル。蘭^ク。吸劑^ク。キ^ンク^シ。ス^ラ。○

總稱

ナリ

○越幾斯舍利別ノ如キ溶解スヘキ者ニ水液ヲ配合ス之ヲ飲劑ト云フ。譬ヘハ左ノ方ノ如シ方

接骨木花浸 四弓

民侄列里精 一弓

舍利別 半弓

右三味調勻ス。又方

吐酒石 二瓜

加密列花水 二弓

舍利別 半弓

右三味調勻ス。○瀕劑安質母尼劑亞鉛華ノ

如キ水ニ溶解セリル金石類ハ配合ヲ禁ス。但阿羅比亞護漿舍利別ノ如キ者ト相和スレハ是モ亦或ハ飲劑トナスベシ

○吸劑ハ煉膏ト舍利別ノ間ニアリ内外共ニ供用スヘシ其品ハ美味ヲ藥材植物ノ粉

末ニ。蜂蜜屋施蔑兒舍利別粘漿卵黃軟華爾斯亞的兒油。脂油。振爾薩摩子。幾等ヲ和ス。金石藥尼亦少量トテ用ウルニ臨ンテ振盪スベシ。譬ヘハ左ノ方ノ如シ方

硝沙加過泥子精 一錢

甘草膏 一弓

本草綱目卷之二十一 藥部 膏丹丸散 膏 甘草膏

苗香水二勺 甘草膏一匙

右三味調勻ス又方

金硫黃三錢 菲沃斯越樂斯六錢 蘇盤

阿羅比亞蘆藨漿半勺 蘇盤

右三味調勻ス又方

○舍利別ト水液又配合此時亦植酸粘液

等之加ノ水者之ヲ冷飲劑ト云ス此劑ハ氣

味美ナルヲ貴ス譬ハ左ノ方ノ如シ方

過設印亞的兒半錢 蘇盤 栗薩林四勺

リビム舍利別一勺 蘇盤

右三味調勻ス又方

磷酸一錢 蒸餾水四勺

依爹子舍利別一勺 過設印亞的兒一

右四味調勻ス

○病皮下ニアリ或ハ皮表ニアル者ニ直チ

其部ニ塗擦スル藥之ヲ擦劑ト云フ譬ハ

左ノ方ノ如シ方 阿列襪油四勺

右二味調勻ス又方

白石鹼二勺半 迷迭香精一匙

本草綱目卷之二十一 藥部 膏丹丸散 膏

家篤兒藥性論

硃砂精

右四味調勻又

龍腦各二錢

家篤兒藥性論卷二十附錄

家篤兒藥性論卷二十一

和蘭 普勒歇 著

小倉 洞海林 彊健卿 譯補

附錄

鑛泉浴湯

夫鑛泉ノ慢性病ニ於ル真ニ強有カノ
良藥ナリ。見今名ヲ醫林ニ藉スルノ
士。俱瞻通知セシ所ナリ。誰カ敢テ一ノ
不字ヲ説シ。故ニ余カ是舉ニ於ル。獨愬

家篤兒藥性論 卷二十一

然トメ之ヲ顧スルニ、豈亦一大缺典ニ
アラズヤ、是就余カ筆ノ止ムトナク、
新ニ此篇ニ及フ所以ナリ

①鑛泉

鹽温泉

州 穀

硫黄泉

曹達泉

芒硝泉

海鹽泉

舍密未明泉

ル、エ、ン、テ、ル、マ、
子、ン、テ、ル、マ、

ル、ブル、ロ、ム、ズ、
子、ロ、フ、

ロ、ン、ウ、
子、ダ、

カ、ラ、ウ、
子、ソ、

ル、ン、
子、

ン、セ、
子、

察精冷泉

外有硫黄泉

剛鉄泉

曹達泉

含游離炭酸瓦斯泉

芒硝泉

岩鹽泉

海鹽泉

海水

天壽丸養生論

卷二十一

硫黄泉硫黄泉温泉温泉硫黄之レカ礎ト成テ
 涌出ス。故ニ余之ヲ試験スルニ。概メ硫黄ヲ稱
 用スル所ノ諸病ニ效アリ。殊ニ硫黄ノ效獨腸
 ニ逞クスルヲナラス。藥力血液ニ混淆メ。瑣
 環スル手ヲ要スル者。惟用ツルニ。内部諸器
 良妙ノ運營ヲ發セシム。其效遙ニ他ノ硫黄劑
 ニ超絶超絶ニ疑ハカルヘシ。何者合藥術家ニ
 於テ硫黄劑多シト雖此天造泉ノ如ク。硫黄
 溶解スルト至微ニメ且良ナル者一モアルト

ナキヲ以テナリ
 ○右ノ所説ハ決メ臆斷ニアラズ。多年ノ實驗
 ニ出ル者ニメ。此モ疑ヲ容レサル所ナリ。余モ
 亦十三年ノ間孟底孟底母地ニアリテ。患者ノ硫泉
 ニ浴スル者ヲミルニ。諸醫數般ノ硫黄劑ヲ以
 テ。久シク治療ヲ施スト雖自若トメ毫モ效ヲ
 見サルノ諸病ニ。奇驗ヲ奏スルト勝テ算マ
 カラズ。故ニ余常ニ之ヲ賞用スルト。少カラズ
 ○硫黄泉ヲ稱用スル所ノ諸病ヲ把テ。左ニ掲
 ク

本草綱目卷之二十一
 硫黄

第皮病 德斯加羅舍 解凝劑石炭條下性ノ疥癬
濕性風癬 乾性風癬 癩病等ノ頑惡病 他醫未其
シク冷硫泉ヲ命セスト雖予獨三週ヨリ六週
ノ間冷硫泉ヲ服セシメ兼テ冷硫泉ニ浴セシ
メテ其效ヲ獲ルト神ノ如シ ○病已ニ經久ニ
メ局部ノ疾患ノ為ニ皮膚ノ官能常ヲ變スル
者ハ今年浴法ヲ一施メ治スト雖必根治ヲ得
ルト云難シ然レ患者翌年ニ至テ急忽スル
ナク再復浴泉スル片ハ十中八九ハ根治ヲ得
ルナリ ○一醫妙ニ硫黃浴湯ヲ製シ天生ノ者

三代用メ右ノ患者ニ用非テ必シモ天然ノ者
ヲ求ムル所及ズト云ヘリ然レ其效用ヲ比
較スルニ其優劣豈啻霄壤ニシテラシヤ故
其異ナル所以ヲ舉テ左ニ示ス
其二 天生冷硫泉ハ游離硫水素瓦斯ヲ含ム
ト至微至密ナリト雖人平ノ者ハ只硫化剥篤
亞斯ノ效ヲ示ス
其三 天然硫水浴熱之ヲ天生者ニ比因ルニ其
胸ヲ感動スルト猛ナリ故ニ肺ノ患害ヲ生ス
此ト亦速ナリト云

其三泉ノ湧出タル地ハ乾燥セル山氣最多シ
 此氣能ク皮病ノ治ヲ扶以ル惟リ患害トモ
 其四頑固ノ皮病其因局處ニ在ルハ固ヨリ論
 ナシ其德斯加羅舎ヨリ發スル者ヲ根治スル
 至至至至至生硫泉水ヲ服スル必要ナシ
 其五天者ハ神麼ニ之ヲ製スル雖決決天至
 其者ト同シキ下能ヤ至(二)天生ノ流水ヲ他地
 并搬運スル其水重ク硫水素瓦斯容易ヲ桶壺
 中集リ消散ス其效脱ス故ト之ヲ運輸スル
 太難ト云々

第三 痺麻質私熱性痺麻質斯其熱症發作ノ間ハ
 硫泉浴全ク益ナキハ固ヨリ論ナシ然レ熱已
 退ク後速ニ其餘病ヲ全治シ肢節ノ癢癩ヲ
 其本然ニ回復ヒシムルハ硫泉ヲ内外俱用
 スルニ勝ル者絶テアルナシ故ニ硫泉ニ浴
 シ兼テ硫泉ノ滴浴法ヲ行ヒ硫泉ヲ内服スル
 シ加之常習ノ空氣俄ニ乾燥ノ山氣ニ變革ス
 是亦治ヲ扶ル所ナリ此故ニ冬時熱性ノ痺麻
 質私痛ヲ患フル者幸ニ湧泉ノ地即孟底母地
 遠カラズンバ努力之ニ浴スルヲ命スベシ

本草綱目卷之二十一

予之ヲ試ムルニ。此患者癩毒及ヒ其他ノ病ヲ
挾マザル時ハ全治スルヲ枚舉スヘカラス。繼
令根治ニ至ラザルモ。翌年ニ至テ爾ノ容易ニ
再感スルヲナシ。○慢性癩。麻質斯。筋纖維ニ感
スル者。或ハ神經ニ感スル者。或ハ局處ニ固着
セル者。論ハハ顔面痛。癩質私性胃痛。神經勝
痛等々如キ。或ハ游走スル者等々。其ハ硫泉浴
法ニ效也。之外用法即温覆法。塗擦藥膏。藥蒸
布。痛風太布。繼布。痛風紙。蒸氣浴等ニ勝ルヲ速シ。
故ニ極メテ良ナリ。其ハ其類ニ非ズ。其ハ其類ニ非ズ。

第三痛風善性痛風ト熱性癩麻質私ハ其症互ニ
誤認シ易シ。故ニ是ニ其差異ヲ劃メ。判然タラ
シメント要ス。夫熱性癩麻質私ハ實ニ發作劇
甚ナリト雖之ヲ善性痛風ニ比シ。多ク良
ナル者ナリ。痛風ハ則然ラズ。其症暫クニ經
過スルモ。日後多クハ再發シ。決メ之ヲ抑留ス
ルヲ能ハザルナリ。○脚痛風モ亦發作間ハ硫
泉浴ヲ要セズ。然レ德斯加羅舍性ノ痛風ヲハ
徐々ニ根治セシハルニハ。硫泉浴ニ兼テ硫泉
ヲ内服スルヲ一大良法トス。此法方ヲ行ハハ

縱令全治ニ至ラザルモ、病焰久シク熄滅ノ以
 テ患苦ヲ免ルベシ。右件ノ所説ハ皆是。諸醫累
 年ノ歴驗ニ出ル者ナリ。余モ亦自孟底母^{名地}
 浴室ニ於テ、親シク此法ヲ行ヒ、效ヲ得^少
 カラス。愈其説ハ吾ヲ欺カザルヲ信スルニ
 足レリ。①殊ニ脚痛風、手痛風等數回發作ノ後、
 手足ニ殘留スル所ノ結節腫ヲ分解スルニ太
 良效アリ。

第四 經久癩毒 硫黄ハ元來癩毒ノ妙劑ニアラザ
 ルヲ、世ノ普ク知ル所ナリ。故ニ癩毒ニ用ケル

二ハ其病經久ニメ、頑劑ヲ用ウルト已ニ數回
 ナルモ、全效ナキ者ニノミ用井テ效アリ。殊
 經久ノ癩毒其外形痛風或ハ皮病^{癩毒性痛風}
 癩毒性風ヲナス者ニ奇驗アリ。

第五 鉛毒、頑毒 硫黄ハ善ク酸化鉛、酸化頑ヲ分析
 シ、其分析シタル鑛ヲメ、毫モ人休ニ害ヲたス
 トヲ得サラシムル效能アルト世ノ普ク知ル
 所ナリ。故ニ往昔ヨリ鉛毒、汞毒等ヲ制克スル
 ニハ、硫泉水ヲ飲服シ、及ヒ水銀病ノ初發劇熱
 ノ期過了ル者ニ、硫黄泉ヲ要藥トス。

第六 痔疾盲痔血痔。痛等。共。硫泉水ヲ服シ。硫泉ニ浴スルノ外。一モ之ヲ根治スル者ナリ。一ナシ。故ニ之ニ兼テ醫ノ命ニ從ヒ。攝養ヲ加レバ。從來習染セル所ノ空氣モ。亦變ノ高燥清爽ノ山氣トナリ。其他或ハ身體ヲ適宜ニ運動シ。或ハ旅行シ。或ハ逍遙スルカ如キモ亦以テ大ニ其治ヲ扶クルアリ。○和蘭ノ硫泉高名ナル者。冷泉ハ則。孟底母地名。○四時ノ行程ナリ。エイルセ地名。子ントル地名。等ニアリ。温泉ハ則。アケン地名ニ出ツ。然レ冷泉ニ比スレハ硫

黄ヲ含ムト大ニ微ナリ。○井スバモテ地名。テシ。バー。テシ。同ハ共ニ全ク硫黄ヲ含マス。故ニ硫黄泉トナスハ誤ナリ。○河ノ全樹ノ葉。剛鉄泉冷泉。○コウド地名。スタ地名。蘭。世ニ所謂剛鉄泉ハ。鉄ノ外過量ノ炭酸瓦斯ヲ含ム。夫鉄ハ真ニ山物ノ幾那ニメ。保固強壯藥中ノ絶品ナリ。故ニ先達スル所ノ腸胃ヲ強壯シ。次ニ血中ニ混メ。血ノ精カヲ活潑シテ運行ヲ奨進ス。○鉄ハ其性全ク硫黄ト相反ス。故ニ剛鉄水ヲ用ル所ノ病モ。亦自血全ク別ナリ。

○剛鍈水ノ主治ヲ概論ス。此水、血脈筋肉神經等ノ官能不足、或ハ非常過大ノ分泌排泄、或ハ惡液質或ハ血液ノ釀成缺敗スル等ニ因テ、已ニ著シク衰弱セル者、若クハ將ニ衰弱ニ陷ントスルノ徴アル者ニ用ルベシ。○剛鍈水ヲ内用スヘキ症、其最喫緊ナル者、左ノ如シ。

一第過大ノ亡血暴瀉、經久瀉、粘液漏泄、房事過度、經久悲傷ノ感動等ヨリ發スル所ノ全体ノ衰弱ニ良ナリ。

二第腸胃尿道陰具四支等ノ如キ、局部ノ虛衰ニ

良ナリ。

三第腸胃膀胱陰部等ノ粘液漏泄病、其因局部ノ生カ衰弱、筋肉弛虛等ヨリ發スル者ニ效アリ。

四第血液釀成不良、血液運行怠慢等ノ病、即萎黃病、粘液性ノ全身水腫、諸厄利亞病、遷延間歇熱等ニ良效アリ。

五第神經病、即、依剝、昆垓、鬼子宮病、不孕等、其因全身ノ衰弱或ハ内臟ノ虛弱ニ在ル者、或ハ兼テ

○剛鍈水ノ有名ナル者ハ、名地 韃爾門、名地 水德哩

大正醫學雜誌 卷二十一

勃爾孤同スクワルバカ同カ蘓吧同カ等カナル
 炭酸曹達泉冷泉○温泉○ココルコテコエコルコレコワコダ
蘭此泉曹達小炭酸ト親和セル者ヲ舍ム儕埒
 滿以愚迷林同ノ説ニ據レバ胃中ノ酸敗液ハ
 醋酸鹽酸ノ二者ヨリナル故ニ之ヲ服スル
 胃中ノ酸液ニ分析セラレ其功變ハ緩解凝
 制酸藥トナル是ヲ以テ胃中ノ峻敗液粘液及
 吐休ム時ナキ者吞酸并ニ黃疸石淋結石ノ癖

アル者ニ效アリ又腺病及ヒ肺ノ結核勞ノ初
 起ニ效アリ○温泉ハ「ト」部ノ「ト」区トス
 ランゲンバト地名ホヘメン地名ト「ト」ト区等
 是ナリ冷泉ハ「ト」地名ノ「ト」地名ト出ル
 所ノ佛郎仙私泉及ヒ「ト」地名ノ「ト」地名ト出ル
 爾攝爾水「ト」地名ナウ等是ナリ
 芒硝泉冷泉○温泉○ガトラトウトベルトストウトトトハ
 苦鹽泉冷泉○温泉○「ト」地名ト「ト」地名ト
 坊間ノ芒硝硫酸及ヒ馮利鹽硫酸天ト亞ト麻ト僣トハ共ニ
 腸ノ強制衝藥ニメ大量ニ与フレバ多ク大便

本草綱目卷之二十一
 卷二十一

ヲ溘泄ス。是ヲ以テ此鹽ヲ含ム所ノ鑛泉ハ其
 效芒硝瀉利鹽ニ同シ。且性緩ニメ適良ノ者々
 あり。故ニ長服スルニ害ナシ。○腸ノ運營怠慢及
 ニ閉塞粘凝ヲ治ス。又腹部多血及口之ニ由テ
 發スル所ノ諸病即昏暈中風ノ僻アル者肝病
 脾病ノ僻アル者依剝昆垓鬼神志鬱憂病子宮
 病。月經閉塞ヨリ生スル諸病等ニ效アリ。○温
 芒硝泉ノ最良ナル者ハ則佛郎斯ノフロニ
 水レ込ボヘメシ地ノカルハスバト等はナリ
 其冷泉ハ則ボヘメシ地ノカルハスバト等はナリ

場ノニ在ル所ノクレシス泉是ナリ。○冷瀉利
 名場ノニ在ル所ノクレシス泉是ナリ。○冷瀉利
 鹽泉ノ有名ナル者ハ英吉利國ノ越頓孫泉ボ
 ヘメシ地ノ舍度律土泉摩度矢鳩土等ナリ。又
 ボヘメシ地ニヒルナエル苦泉ト稱スル者ア
 リ。此泉ハ瀉利鹽芒硝ノ二鹽同量ヲ含ム。○這
 ニ鑛水ハ共ニ他方ニ轉輸スヘシ。故ニ鑛水ヲ
 驚ク者ニ就テ求ムレバ得ヘシ。然レ直ニ其地
 ニ就テ服スルヲ良トス。

補 魏及尼水
 穆私篤醫學韻府ニ白痔疾家依剝昆垓鬼家

腹部多血ノ者、飲食消化セズ、心下煩悶、風氣
 膨脹、大便難等ノ症ヲ發スル者ハ、魏及尼水
 殊效アリ、方 麻屈涅天亞 三錢 泉水ニ此
 右ニ味溶和シ、徐々ニ攪拌シツ、稀硫酸九
 錢ヲ加フ、每服一麥酒盞、日ニ三次、此方中ニ
 用ウル稀硫酸ハ、純硫酸一分水六分ナリ
 海鹽泉冷泉○温泉○ゼーソウト、ベハテンデ、
蘭内服メ、始メ、腸胃ノ粘膜ヲ衝動シ、蠕動機ヲ強
 壯ニシ、尋テ腸腺ト唾腺ノ分泌ヲ増進シ、血中

或ニ混メ、緩々衝動シ、血液ノ運行ヲ催勸シ、血質
 ヲ刺衝シ、尿ノ分泌ヲ增多シ、水尿管ヲ衝動ス、
 故ニ其效、瀉利鹽泉ニ同シ、然レ解凝ノ效ハ稍
 緩ナリ、○胃ノ粘液及ヒ之ニ由テ發スル消化
 機急慢閉塞ノ辟アル者、萎黃病等ニ良ナリ、○
 腺病即瘰癧病、ストリマ強按ニストリマ、
腺病ノ一腫ニイ、
雖、瘰癧病ト全ク同シカ
ラ、硬腫スル病ナリ、
ラ、其病状治療ノ法、
ニ詳ナリ、參等ニ效アリ、
考スベシ、蓋此病ハ海鹽ノ外更
 ニ沃實涅ヲ含ム者ヲ以テ殊ニ良トス、諭ヘバ
 列印勃扇生地ノクレウスナ地ノソウテテ

本草綱目卷之二十一
 卷二十一

オトールサルヨリ出ル所ノ海鹽水々如キ
 是ナリ○海鹽泉浴湯ハ能ク腺病皮膚虛衰乾
 燥及ヒ之ニ由テ發スル氣管泌尿器陰部等ノ
 粘夜漏泄病及ヒ胃寒ノ僻アル者ニ殊效アリ
 ○温泉ハ井スバードンバードンバードン等
 是ナリ冷泉ハ尋常食鹽ヲ得ル者皆算入スベ
 シ就中孟底母ノ近地ナルコレイ子ノ鹽泉ハ和
 蘭ノデヘンテル地ヨリ十八時ノ行程ナルヲ
 以テ用ウルニ便ナリ

海水ヒール蘭

海水ヲ以テ鑛水ニ屬スルハ太怪ムハナシ似
 タレト只是習俗ノ然ラシムル者ナリ○冷海
 水或ハ時宜ニ從テ温乳ヲ加テ温メタル海水
 ハ海鹽泉苦鹽泉等ヲ稱用スル所ノ諸病ニ飲
 服セシメテ皆良ナリ故ニ粘液病閉塞病腺病
 等ニ用井テ宜シ○温浴湯トナシテ其效海鹽
 泉諭ヘバアケシ井スバードンバードン等
 テニ同シ然レ剛鍊泉諭テ琵琶爾門多泉又
 冷硫泉諭ヘバ孟底母泉等ノ用ヲナス可能
 何者剛鍊泉アル所ノ炭酸瓦斯硫黃泉

本草見藥生論
 卷二十一

アル所ノ硫水素瓦斯ノ如キ揮發ノ元質ヲ含
 マサルヲ以テナリ○海濱ニ浴スル法ニ其
 效海水温浴ト全ク異ニ能ク皮膚ヲ強壯ス
 故ニ皮膚弛緩スル者ニ稱用ス怠慢乾燥スル
 者ニハ用ウルト少シ又他ノ温浴ノ如ク神經
 ヲ緩和鎮靜スルノ効ナク反テ太陽之ヲ興奮
 衝動ス○解凝劑篇海水ノ條ヲ參考ス
 補 弗里設藥性論及ニ増補依百乙藥性論
 二曰海水浴ハ其用既ニ尚シ其效ハ海水中
 ニ含ム所ノ食鹽及ニ芒硝瀉利鹽其他ノ元

素ニアリ又蒲魯繆母ノ含ム者アリ此素ハ
 殊ニ北海ノ潮水ニ多シ大洋ノ海水ハ其質
 皆同シ○海水浴ノ效ハ水中ニ含ム所ノ元
 素ノ外更ニ波濤ノ激力海水ノ寒氣其他元
 素ニ關ラザル所ノ者ニアルヲ明テ知故
 海水浴ハ其效全ク海鹽浴ト同シカスニ選
 ニ之ニ超絶メ神經及ニ知覺機ニ殊效アリ
 ○海水浴ハ補給機ニ屬スル病以外神經諸
 病殊ニ刺衝機銳敏ノ神經病即癩癩疥癩病
 神經頭痛舞蹈病頑固間歇熱麻痺依刺衝機

兒慢性癩麻質斯痛風等ニ效アリト雖内部
ノ慢性焮衝呼吸器ノ病内臟ノ缺損等ニハ
害アリ○知覺銳敏ノ人ニ海水浴ヲ施サハ
稍注意ノ初メ微温浴トナシ次ニ暖日ヲ撰
ク海中ニ就テ游浴セシムヘシ但行浴ノ時
ハ空心ヲ良トス一日ニ一浴日中ヲ撰徐
々ニ水ニ沈ム一ナク久ク水中ニ居ルルナ
ク可頻ニ水中ニ沈ム初回ハ僅合ニ密繆
度ニメ漸々浴時ヲ長クシ既ニ浴ヲ出ル後
ハ輕々ニ身体ヲ運動シ或ハ温卧蓐中ニア

ルヲ良トス故ニ海水浴ハ概シテ南海ノ濱
ヲ宜シトス○海水浴ハ初メ稍胸中ニ苦悶
壓迫ヲ覺フト雖後直ニ快爽ヲ覺ヘ終ニ痒
搔小疹ヲ發ス
人造鑛水ドール、キンスト、ナールヘマールク
世ニ藥泉ト稱スル者ハ實ニ病ヲ瘳ス要品タ
ルヲ以テ人々常ニ之ヲ探討メ休マズ如今ニ
及テ竟ニ鑛泉ヲ擬造スルコトヲ發明セリ即突
列私、甸、アサキ地名ニ別耳列印、地、般、勃、爾、孤、同、私、科
窪同、巴、里、斯、同、勃、律、設、耳、南、地、名、ハ、ンニ在テ大

衣篇記藥性論 卷二十一

稱用スル者はナリ○近時分析家、天生鑛水ヲ分析シテ之ニ混合シタル元素ヲ検査スルヲ太詳カナリシヨリ、舍密術ヲ以テ之ヲ擬造シ得テ、其質宛天生鑛水ト同一般ナルカ如シト雖其效驗ニ至テハ絶テ天生ノ者ニ類セズ、加之人造ノ鑛水浴ハ所謂羈旅行人烟ヲ蟬脫ノ乾燥ノ山氣ニ就クテ得ス、且日常奉身及ヒ飲食ノ按排交友應接ノ情態ヨリ、其他二六時中事々物々ニ至ルマテ皆常習ヲ變化シ大ニ慢性病ノ治ヲ助ル所以ノ事件ヲ缺クガ

故ニ人々之ヲ他ノ合藥ノ如ク聽用スト雖其功遙ニ天生鑛水ニ及ハサルヲ亦以テ徵スルニ足レリ○鑛泉ノ質瓦斯ニアラスノ鹽タル者ハ殊ニ能ク人エヲ以テ之ヲ製シ得ベシ即カル、スバト犀度矢鳩土及ヒ舍度律土地名ニルナエルノ如キ是ナリ

補 穆私篤醫學韻府ニ曰、藥湯ノ常湯ニ異ナル所ノ者ハ其内藥品ヲ加フルヲ以テナリ、藥品ノ量ハ全身局部大人小兒ニ從ステ同シカラズ其品モ亦病ニ從テ異ナリ或水

液類或鹽類或草藥宜ク症ニ從テ撰用ス
 シ○浴湯ノ温度ハ列氏ノ二十五度ヲ法ト
 ス然レモ寒熱ノ度ハ時ハ宜ニ從テ上下スベ
 シ又蒸氣浴トナシ用ウルコトアリ○藥湯十
 二法アリ第一緩和浴湯麥粉麥芽ホーイサ
 卜下緩和草藥類ヲ水煎ル浴湯ニ加フ○第
 二刺戟浴湯綠色鹼一比食鹽四比ヲ以テ造
 ル又腐蝕加里芥子加里油等ヨリモ製スベ
 シ○加里油浴湯ハ猛烈加里油二分水分一
 ヲ以テ製ス劇症ノ瘧病ニ殊效アリ○芥子

脚湯ハ芥子六錢ヨリ十二錢良鹽一握ナリ
 ○第三鎮瘧藥浴湯加密列花纈草墨列僕里
 迷迭香各一匁半ヲ熱湯ニ浸出シ浴湯ニ加
 へ浴中更ニ白石鹼二匁蒸餾水六匁列賢堦
 兒油一錢斯必加列賢堦兒油半匁迷迭香油
 半錢ノ合劑ヲ以テ全身ヲ摩擦ス○第四強
 壯浴湯其品ハ即チ揮發香竄収斂藥香竄解
 凝藥櫟皮楊皮七葉樹皮或ハ鉄劑即チ口ニ
 リタル下タルキハ等ナリ是等ノ諸品ハ先
 揮發ノ者ヲ用ヒ生氣漸ク復スルニ從テ保

固強壯ノ者ニ移ルヘシ。強壯藥浴湯四方アリ。其一方、泥昌根カサ、密列花ヒツ、接骨木ヒツ、花各一匁半。右三味、一浴湯ノ劑トナス。其一方、櫟皮、楊皮各二匁。右二味、水八匁ヒツトテ以テ、煮テ半ヲ減シ、浴湯ニ加フ。其三方、クハロヒツ、ロヒリヒツ、タルトヒツ、マルチアヒツト三匁ヨリ四匁、右六箇ニ分チ、一箇ヲ以テ一浴湯ニ加フ。其四方、櫟皮煎、楊皮煎、七葉樹皮煎各二匁。赤葡萄酒三匁。右合メ一浴湯ニ加フ。○極虛ノ人ニハ、亦肉羹汁ヒツ、葡萄酒ノ二品ヲ以テ、浴湯ヲ製シ用井ルニア

リ○小兒ノ強壯浴湯ニハ、左ノ方ヲ宜トス。方、香竄散ヒツ、疆按、和蘭局方、香竄散ノ方、桂、益、智、壘、肝、入、芸、香、葉、泥、菖、根、各、半、比、右、三、味、分、ツ、テ六箇トナシ、毎朝夕一箇ヲ以テ、一浴湯ニ加フ。又左ノ方小兒ニ殊效アリ。墨列僕里葉ヒツ、送香葉、墨律薩葉各一匁ヨリ一匁半。右三味、六箇ニ分チ、一箇ニ水四匁ヒツトテ加ヘ、蓋アル藥罐中ニ煮テ、能ク濾過シ、一浴湯ニ加フ。○第五、硫黃浴湯、硫肝溶液ニテ製ス。醋一二匁ヲ加フル者ナリ。方、硫肝一匁ヨリ一匁半。

右六箇ニ分テ、硝子燬ニ入レ貯ヘ。一箇ヲ水ニ溶シ、一浴湯ニ加ヘ。次ニ醋ヲ加フ。○第六、海鹽浴湯一浴湯中ニ食鹽六比ヨリ七比ヲ溶ス。○第七、加里蒸氣浴ナリ、腺ノ結核ニ效アリ。方、碓砂、酒石鹽各半ヲ、右ニ味、細管口アル器ニ入レ、熱湯ヲ灌キ、患部ヲ管口ニアテ、其氣ニ浴セシム。○第八、酸浴湯ハ、肝臟病、腹部多血及ヒ其ヨリ發スル諸病ニ效アリ。方、硝酸鹽、酸各一ヲ半ヨリ二ヲ、右ニ味混合六箇ニ分テ、硝子燬ニ入レ貯ヘ。一浴湯中ニ

一燬ヲ加ヘ浴シ、二十四時ヲ隔テ、又一浴ヲ行フヘシ。但、長流水ヲ以テ浴湯トナス時ハ、藥力能ク數日ヲ經テ脱セザルガ故ニ、再三温メテ二三浴ノ用ニ供スベシ。酸浴ヲ用カルノ間、齒齦赤色ヲ發シ、口中銅味ヲ覺フル時ハ、一浴湯中半劑ヲ減スベシ。小兒ノ酸浴モ亦半劑ヲ宜トス。○第九、慢性痛風ニハ、骨布^ブ叙^シ左ノ浴湯ヲ施ス。方、碓砂二ヲ、猛項半錢、沙毘那精六ヲ、沙毘那水十六ヲ、右ニ味調勻。此方ハ唯一浴湯ニテ二三回浴シ、三日ヲ

隔天、又半浴湯、造ルベシ。○第十筋、腱、蜂、巢、
 質、骨、節、靱、帶、等、ノ、間、ニ、滲、出、ス、ル、所、ノ、湯、ニ、液、
 ヲ、吸、収、セ、シ、ム、ル、ニ、ハ、左、ノ、方、ヲ、用、ウ、方、矢、鳩、
 荅、葉、二、弓、亞、麻、仁、末、一、弓、右、二、味、調、勻、六、包、ニ、
 分、チ、一、浴、湯、中、一、包、ヲ、加、フ。○第十一、藥、湯、中、
 ニ、局、部、浴、アリ、殊、ニ、多、ク、脚、浴、ヲ、用、ウ、譬、ハ、ハ、
 猛、瀆、脚、浴、ノ、癩、毒、ニ、於、ル、醋、脚、湯、ノ、熱、病、ニ、於、
 於、糠、皮、楊、皮、前、脚、浴、ノ、足、指、脫、疽、ニ、於、ル、カ、如、
 シ。然、在、此、脚、浴、ノ、ミ、ヲ、以、テ、病、ヲ、治、ス、ル、ヲ、能、
 ハ、ズ、唯、治、療、ノ、一、助、ト、ナ、ス、ベ、キ、ノ、ミ、○第十

二、硫、水、素、瓦、斯、ノ、蒸、氣、浴、及、ヒ、硫、黃、薰、法、共、ニ、
 慢、性、皮、病、及、ヒ、瀆、毒、病、ニ、殊、效、アリ、但、硫、黃、薰、
 法、ハ、患、者、ノ、呼、吸、器、ヲ、害、ス、ル、ヲ、以、テ、好、製、ノ、
 薰、烟、箱、ヲ、以、テ、之、ヲ、避、ク、ヘ、シ、
 蒸、氣、浴、ト、シ、テ、ハ、ソ、ノ、ヲ、ト、ス、
 輓、近、ニ、至、テ、蒸、氣、浴、大、ニ、行、ハ、ル、ニ、法、アリ、一、ヲ、
 尋、常、蒸、氣、浴、ト、云、ヒ、一、ヲ、魯、西、亞、蒸、氣、浴、ト、云、フ、
 尋、常、蒸、氣、浴、ハ、先、患、者、ヲ、メ、桶、中、ニ、坐、セ、シ、メ、唯、
 其、首、ヲ、出、メ、外、ニ、才、キ、餘、ハ、蓋、ヲ、以、テ、封、メ、桶、中、
 ニ、ア、ラ、シ、メ、下、ヨ、リ、温、湯、ノ、蒸、氣、ヲ、入、レ、薰、蒸、ス、

○局部蒸氣浴ハ容易ニ醫療ノ常用ニ供スルキ
 一良藥トス○此法ヲ以テ下肢ニ施スルニハ
 此ステイニシテ烙熱ニ外ル者ヲ取テ桶中ニ投
 シ上ヨリ水ヲ灌注シ強直ノ部若クハ腫脹ノ
 部ヲ桶上ニ安シ中ヲ以テ之ヲ覆ヒ蒸氣ヲノ
 飛散セサラシム○耳鼻ニ施スニハ漏斗ヲ用
 ウルヲ宜シトス眼ニ施スニハ小茶碗ヲ用ウ
 ヘシ但茶碗ハ熱湯ニテ頻々洗ヒ用ルヲ宜シ
 トス○定處ノ疼痛乃僂麻質私性ノ麻痺若ク
 ハ頑痛等ノ患部ニ施サント欲セバ茶罐ニ熱

湯ヲ盛リ蒸氣ヲノ直ニ患部ヲ衝撞セシム以
 テ燒カ如キヲ覺ユルニ至ルベシ
 補 弗里設藥性論ニ曰浴湯ハ水ヲ用ウル
 ヲ常トシ或ハ乳汁葡萄酒等ヲ用非或ハ火
 酒水合方ヲ用ウ藥湯中ニ加フル所ノ藥劑
 ハ鹽類加里類草藥等ナリ其溶和シ難キ者
 ハ先小量ノ水液ヲ以テ溶解スベシ○賦用
 斯人驗温器ヲ以テ浴湯ノ温度ヲ試ミテ以
 テ温度表ヲ作ル

温度表 列氏 攝氏 華氏

寒水浴	十八度至二十五度	十九度至二十五度	五十度至五十七度
冷水浴	二十六度至	二十度至二十八度	六十八度至
微温浴		二十九度至三十四度	八十三度至
温湯浴	二十一度至二十七度	三十五度至四十五度	九十四度至
熱湯浴	三十三度至三十九度	四十一度至四十五度	九十五度至
○夫浴湯ノ垢ヲ去リ、身ヲ潔フスルニハ、微温ヲ以テ足レリトス。灌水浴ハ寒水ヲ宜トス。是其效惟水寒ニアルヲ以テナリ。灌水浴ヲ行フ法ハ、寒水ヲ灌溉スル部ヲ除クノ外ハ、全身ヲ微温湯中ニ置クベシ。然レ時ニ全			

身ニ灌水スル法アリ。滴浴法モ亦唯寒水ヲ用ウ。灌水滴水ノ兩浴ハ、其行時縱令長キモ、半密繆篤ヨリ五密繆篤ニ過クベカラズ。○冷水浴微温浴ハ、八分時ノ間浴スベシ。然レ未夕之ニ慣レザル者ハ、五密繆篤ヨリ始ムベシ。

家篤兒藥性論卷二十一終

邨嘉平刻

英蘭堂發兌書目錄

大學中興區洞海林先生編

全一冊

泰西醫方二十四脈表

一冊

待醫法眼信長坪先生譯

全百卷

新藥白品考

全四冊

大學大博士佐藤先生譯

全二冊

外科醫法

全三冊

越中三良佐渡先生譯

全二冊

醫療新書

全三十冊

佐倉元正京次先生譯

全九冊

解剖羅向語加詳

一冊

西洋風画入 山内氏藏版
漢字和譯附 英語可留多

箱入

傳次。学教頭藤島本木良徳
臨上。中背山内氏藏版
養生法

全二冊

健全學

全六冊

西洋英傑傳
孤一郎河津先生校訂

全六冊

廣藥鑒法

全一冊

袖珍藥說
大學東校恒太郎石黒先生譯

全三冊

藥品溶解表

一技増

切斷要法
大學東校恒太郎石黒先生譯

全一冊

大平海新報

肩敷定

林戰要録
基五十川先生譯

全三冊

緋井先生譯
緋帶式

全二冊

英語手列草
其作博士譯

全三冊

川口先生開
看病心得草

全一冊

上岐先生纂輯
洛蒙養生訓後篇

全三冊

大學東校石黒先生譯
官化 化學訓書

全十冊

官日講記開
八以醫學法池浦英人

全十冊

官日講記開
官日講記開

全十冊

官病理論
大學東校恒太郎石黒先生譯

全二冊

官種痘龜鑑
大學東校恒太郎石黒先生譯

全一冊

官虎烈刺論
石黒先生譯

全一冊

官痢病論
大學東校恒太郎石黒先生譯

全一冊

官リニドルノ入下論
石黒先生譯

全一冊

官尿要訣
尾立先生譯

全二冊

康校醫院治驗録

全二冊

大部表校
解體學語彙 全一冊
大坂醫學學校
版解剖訓蒙 全一冊
月刊

賴志上岐先生譯
啓蒙養生訓 全五冊
湯平嘉苗先生譯
化學要論 全四冊

賴志上岐先生譯
化學闡要 全五冊
廣平藥師先生譯
內科摘要 全二冊

杉田先生譯
上場疽治範 全一冊
榮太郎小林先生譯
產科摘要 全三冊

一德田代先生譯
外科手術 全二冊
志慮石黒先生譯
新量瓦蘭表 全一冊
收摺

志慮石黒先生譯
外科說約 全一冊
招光生譯
醫事表 全一冊
健勝部

大學校片山先生譯
英軍陣方彙 全一冊
銅
萬國地圖 一板摺

新撰早訓
二一天際 全一冊
廣宅塵切記 全一冊

江戸相場
醫學書 全一冊
山田彌義
建白書 全一冊

石黒先生譯
醫學書 全一冊
石黒先生譯
版日用局方 全一冊

海軍病室
版講義筆記 冊數不定
石黒先生譯
商家日用新語 全一冊

增訂化學訓蒙 全八冊
夏太郎佐藤著作
內科簡明 全三冊

小林先生譯
理體式藥物學 全三冊
薄川
內科簡明 全三冊

遠大郎小林先生譯
藥物學

全十五冊

許岡中村先生譯
西國立志編

全十冊

石原先生譯
外科說略

全八冊

文部省小高先生譯
眼科約說

全三冊

許岡中村先生譯
自由之理

全五冊

丸山藤島道編
華算知方

全三冊

杉田先生著
諸骨表

枚摺

依本東洋先生譯
診法要略

全四冊

東洋佐々木先生譯
解體中理圖說

同圖八卷
全八冊

軍醫部官版
軍陣衛生論

全三冊

渡邊先生著
貿易物品出處表

一枚摺

森島宗次先生譯
華氏日用新方

全三冊

同先生
日用藥劑分量考

全一冊

島村鼎甫先生著
外科通術

圖付
全一冊

橫山深介譯
西洋厚生一覽

全四冊

中致武先生譯
布列私氏解剖圖譜

全一冊

壺町温興先生譯
製劑備考

全二冊

高橋先生譯
經驗方符

全三冊

森島宗次先生譯
藥劑新書

全四冊

文部省官版
夕之子兒藥劑書

全二冊

小林恒先生譯
新藥編

全二冊

甲代先生譯
文園雜誌

冊數不定

松田文瑞先生譯
幼童手引草

全十冊

大坂内病院
日講記聞藥物學

冊數不定

製藥式 牧田先生譯述 全三冊

外科摘要 竹内先生編輯 全八冊

軍醫須知 軍醫部官版 全三冊

野營醫典 軍醫部官版 全一冊

醫事雜誌 坪井信良編輯 冊數不定

獨徠氏外科新說 大坂森鼻宗次譯述 全十冊

急性病類集 岩佐先生纂著 全四冊

解剖訓蒙圖 啓蒙義舎藏板 全三冊

袖珍和英對譯字書 八木先生著 全一冊

七藥新書 大坂横井先生譯 全二冊

生理新論 大坂啓蒙義舎藏板 冊數不定

項髓疫說 西京新宮氏重譯 全一冊

西藥畧釋 坪井先生合刻
内田先生 全二冊

附錄藥名解 同 全一冊

郵便稅 同
府下
諸縣 冊數不定

長生法 松本先生開
白里先生述 全一冊

附錄急救法 同 全一冊

仁墨兒内科則 西京新宮氏重譯 冊數不定

藥品名景 伊藤謙撰 全一冊

流行牛病豫防說 柏原先生譯 全一冊

牛病新書 柏原先生譯 全三冊

一君一民辨 近藤先生撰 全一冊

肉餌辨要 三浦先生譯述 全一冊

假名附人身究理書 大野先生譯
一名人命學のつひ 全三冊壹冊

高木熊三郎譯
全體新論譯解

全四冊

森眞宗次著述
皮下注射要畧

全

森眞宗次著述
新藥摘要

全四冊

森眞宗次著述
藥物新論

全三冊

正明社藏版
法理雜誌 每月三號出版

和田嘉瑞先生著述
西洋年代畧記

折本
全一冊

坪井信良譯
內科闡微

全一冊

東京醫學校官版
藥物學

冊數不定

大坂森眞宗次譯
越里斯藥方金書

冊數不定

名倉文先生譯述
整骨說畧

全一冊

和蘭醫學英氏以校
嗜氏生理記聞

全三冊

恩基德先生閱軍則敏先生著
保壽新論

全一冊

深谷周三先生著
馬騾榮養法

一枚摺

深谷周三先生著
療馬方府

全一冊

陸軍官版
三角綱帶圖解

全一冊

長谷川泰譯述
胸氣新說

全一冊

長谷川泰先生譯
肺焮衝論

全二冊

朴董先生譯
訓天文畧論

全一冊

池田三郎先生抄畧
梅田馨先生校畧
西洋童蒙訓

全三冊

石坂篤保先生著
中毒瑣言

全一冊

新宮先生著
北邪新論

全二冊

柏原學而先生輯譯
詰格致蒙求

全二冊

陸軍官版
撰兵論

全一冊

陸軍官版
軍醫事雜誌

冊數不定

六

六

堤雲山先生抄譯
北京道之記 圖附 全一冊
小山内建先生譯
丹氏察病學 全二冊

星子長先生述
二毒辨 全一冊
緒方惟準先生譯
藥局秤量新比較表 一枚摺

若山義一先生譯述
萬國通私法 全三冊
小林義直先生譯
須知解剖生理淺說 全三冊

三宅氏藏版
內科新說 全三冊
三宅氏藏版
婦嬰新說 全二冊

三宅氏藏版
西醫畧論 全四冊
佐々木東洋先生譯
解剖動脈篇 全二冊

森眞宗先生纂輯
全體新論 全五冊
森眞宗先生譯補
檢脈新法 全一冊

北川良雪先生著述
仁藥禁忌表 折本 全一帙
林董先生
目耕餘錄 冊數不定

林紀先生譯
處方學 全三冊
足立寬先生譯
敏氏藥性論 全八冊

足立寬先生譯
掌中醫學寶 全三冊
長谷川泰先生譯
二病理解摘 要 全五冊一圓五毫

伊藤本丈先生譯
詐病辨 全一冊
陸軍文庫
馬療新法 全二冊 金三分

陸軍文庫
養馬新論 全一冊 廿五厘
小林義直先生譯
養生淺說 全二冊 四十錢

坪井為春先生譯
新撰方鑑 五冊 刻成 全五分
陸軍文庫
軍醫略論 全 五拾

六 六

島村昂先生譯
生理發蒙 圖一冊 金三圓
合卷六冊

小川良輔先生譯
痘瘡畧說 全一冊 金二十五錢
松山棟菴先生編

何禮之先生重譯
萬法精理 七卷 金廿九錢
刻成

文部省官版
弗氏生理書 全七冊 金四廿錢

工部省官版
暹羅紀行 圖付 金四十三錢

醫學校官板
日講醫科全書 冊數不定
一號 十錢
二號 十錢
三號 十錢

東京醫學會社藏板
醫學雜誌 冊數不定

佐藤文信先生纂輯
陽室扶斯論 全一冊
松方惟準先生編

佐藤尚中先生藏板
入啓蒙訓話 全三冊 金廿五錢

順天堂醫事雜誌 冊數不定 一冊一打 金二十五錢

土岐賴德先生
切斷法 二冊 金四十七錢

林董先生譯
彌兒經濟論 冊數不定 二冊出版 金五十五錢

緒方惟準先生譯
西藥新編

中金正衡先生
閑俗夜話 冊數不定 一冊一打 金廿錢

近藤鎮三先生
母親乃心得 全三冊 金三十錢
一冊刻成

東京醫學校官板
醫院雜誌 冊數不定 一冊出版

太田惟寧先生說
藥物鑿法 全三冊 金三十錢
石黑忠惠先生編

近藤薰先生
微毒小箒 全一冊 金二十錢

宿野昇足立濟雨先生著
必讀秤量考 全一冊 十五錢
附錄處方論

中金正衡先生
佛蘭西民法畧解 一冊 金廿五錢
櫻井精先生

伊澤修三先生
教授真法 二冊 金四十五錢
出版

新宮涼園先生
中毒療法 全一冊 金三十錢

松村矩明先生
應用化學 全一冊 金五十五錢

松山棟菴先生
室扶斯新論 全三冊 四十五錢
七厘五錢

<p>森貝奈次先生訳 越里斯藥方全書全四冊 金百兩</p>	<p>浦谷義春先生訳 西洋新藥方選全五冊 金九十五兩</p>	<p>緒方玄蕃先生訳 袖珍方叢全四冊 金五十五兩</p>	<p>和蘭醫學英氏口授 生理記聞全三冊 金七十五兩</p>	<p>文部省官板 化學日記全六冊 金百廿六兩</p>	<p>長谷川泰先生譯 斯泰爾小兒科全十三冊 金四十四兩</p>
<p>文部省官板 物理日記全六冊 金百兩</p>	<p>浦谷義春先生訳 解剖新圖全二冊 金四十四兩</p>	<p>高橋正純先生訳 血管病論全二冊 金五十五兩</p>	<p>高橋正純先生訳 神經病論全一冊 金六十五兩</p>	<p>太田雄寧先生訳 新訂藥量一覽一板 金一兩</p>	<p>河野照三先生著 中毒療法救急一覽表一板 金七十五兩</p>



陸軍醫部
海軍病院
醫學校
官版御用所

拙舗累世書籍ヲ嚮キ近年醫書及ヒ翻譯書ヲ專
ニス都鄙一般醫學大家著述ニ玉フ所アレバ多
クハ拙舗ニ發兌ヲ命ケラル故ニ海内新刊ノ醫
書ハ必ス備エテ以テ漏スリーナカラントス仰願
クハ書ヲ求メ玉フノ諸君子高顧アラントス

東京馬喰町二丁目
英蘭堂 島村利

書肆

